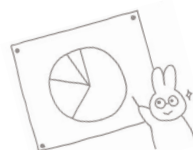
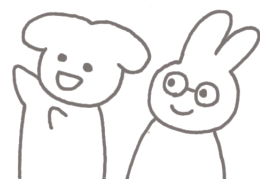


結の器ワークショップ

企画ガイドブック



結の器は「つながりの器」です

つながりってなんでしょか？

家族、友達、同僚、ご近所さん、よく行くスーパーのレジの人、
旅先で偶然会っておしゃべりした人…

慣れ親しんだ「つながり」は、わたしたちを安心させます。
あたらしい「つながり」に、わたしたちはワクワクします。

「結の器プロジェクト」は、
コミュニケーションツールとしての「やきもの」を通して、
人々の多様なつながりをつくり、強化していく試みです。
そして、そのつながりを支える場として
「結の器ワークショップ」があります。

私たちは、より多くの方にこの活動を知っていただき、
人や地域の『結』となる場を増やしていきたいという想いから、
本ガイドブックを制作しました。

本ガイドブックを活用していただくことで、
どなたさまでも結の器ワークショップを
企画・実行することができることを目指しました。

皆さまの創り上げるワークショップが新たなつながりを生んだり、
既存のつながりを強めてくれること、
そして何より参加側も主催側も楽しいワークショップとなることを
祈っています。

もくじ

準備編 p.4

スケジュールをたてる / 引き継ぎと役割分担 p.8

企画編 p.10

1 リサーチをする・テーマを決める p.12

2 交流の跡が残る器 p.14

3 制作でコミュニケーションを図る p.16

4 器を使う p.18

番外編 評価をする p.22

ヒント編 p.24

インタビューの基本 p.26

準備物と備品の管理 p.28

広報について p.30

アンケートのつくりかた p.31

費用の準備 / 個人情報の管理 p.33

MEMO p.35



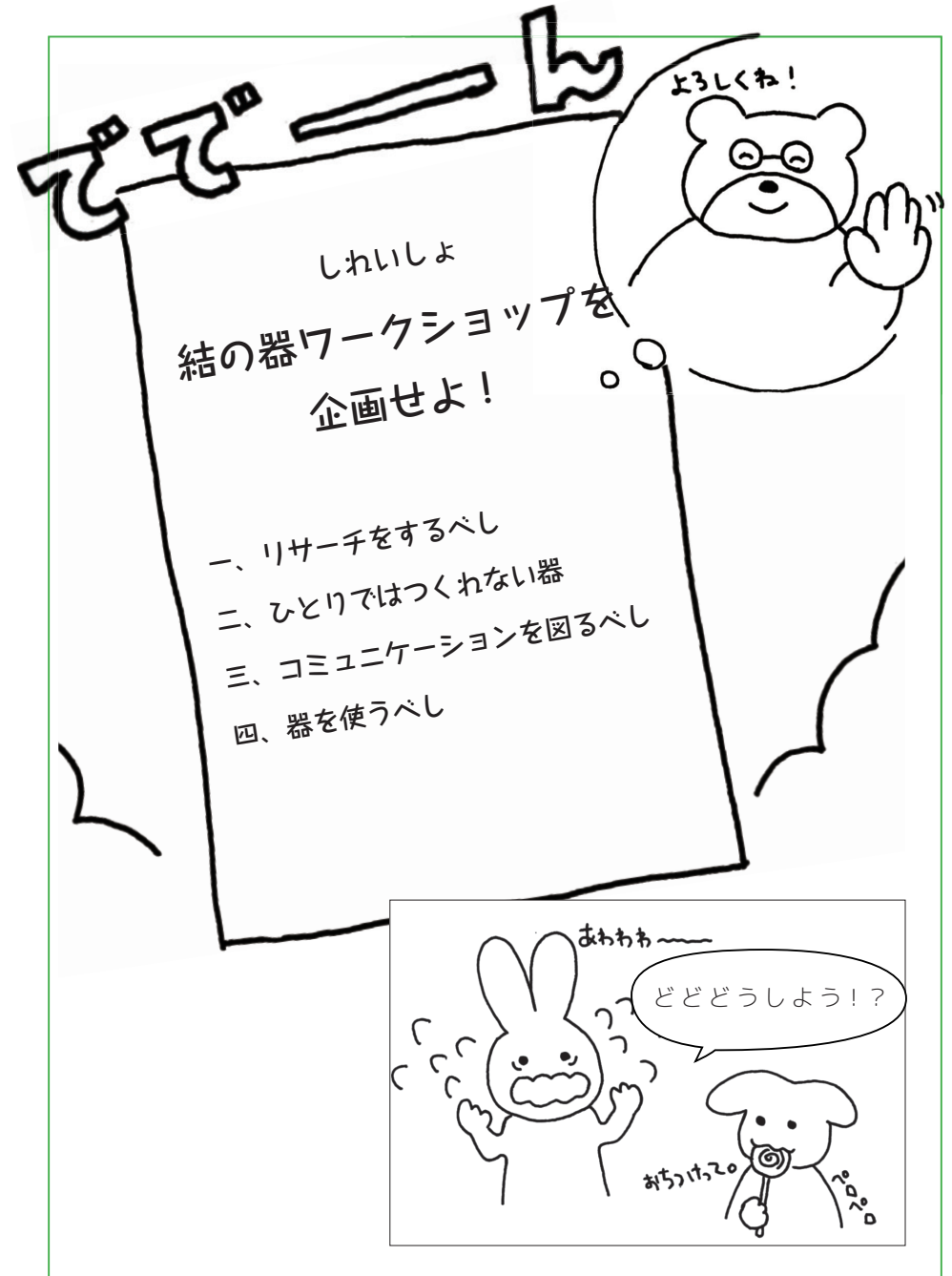
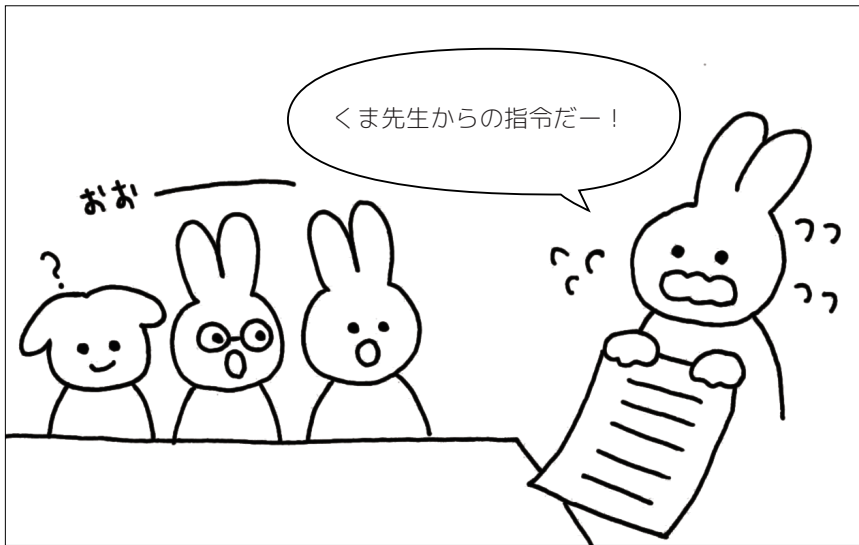
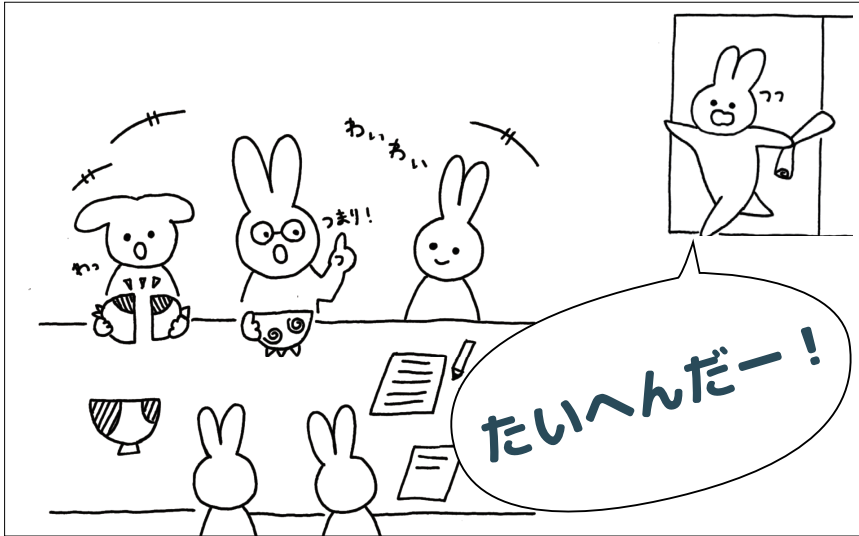
企画をはじめる前に

準備編

さっそくワークショップの企画！といきたいところですが、ちょっとまって。企画・運営にはたくさんの方が携わります。作業をはじめる前に、ひとりひとりの役割を決め、スケジュールを把握することで、作業効率がぐっと上がります。また、時間的・物理的な制約もあるはず。作業をはじめてから、意外な問題でつまづいてしまうことも。だからこそ、円滑な企画・運営のためにはしっかりとした下準備が大切なのです。



やきもの大好きなウサギさんたち。
きょうもみんなで楽しく勉強中です。

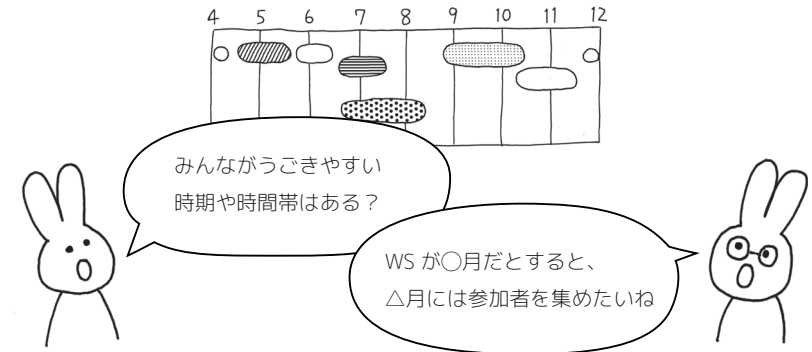




スケジュールをたてる

複数人で企画・運営を行うときは、スタッフの予定を合わせていく必要があります。ワークショップ（以下、「WS」）の開催時期とその準備期間の全体像をつかみ、WS準備のために必要な打ち合わせの時期や回数をおおまかに決めておきましょう。

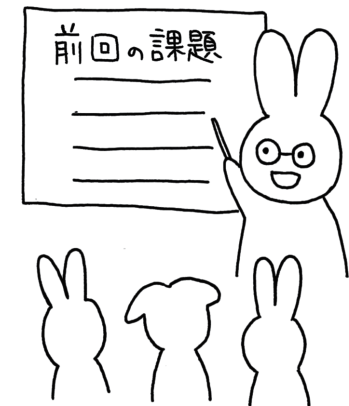
スタッフの人数が増えるほど、全員が予定を合わせて集まるのは難しくなります。はやめにスケジュール決定し、無駄のない打ち合わせを心掛けたいですね。



引き継ぎと役割分担

既にWSを経験したことがあったり、参考になる事例を知っている場合は、引き継ぎや課題の洗い出しを行いましょう。

その上で、スタッフの役割分担を行います。いろいろな分担方法が考えられますが、できるだけ期間や仕事量が偏らないようにしたいものです。また、分担後もそれぞれの作業の進捗状況を全員が把握できるよう、報告・相談のしやすい環境を整えておきましょう。



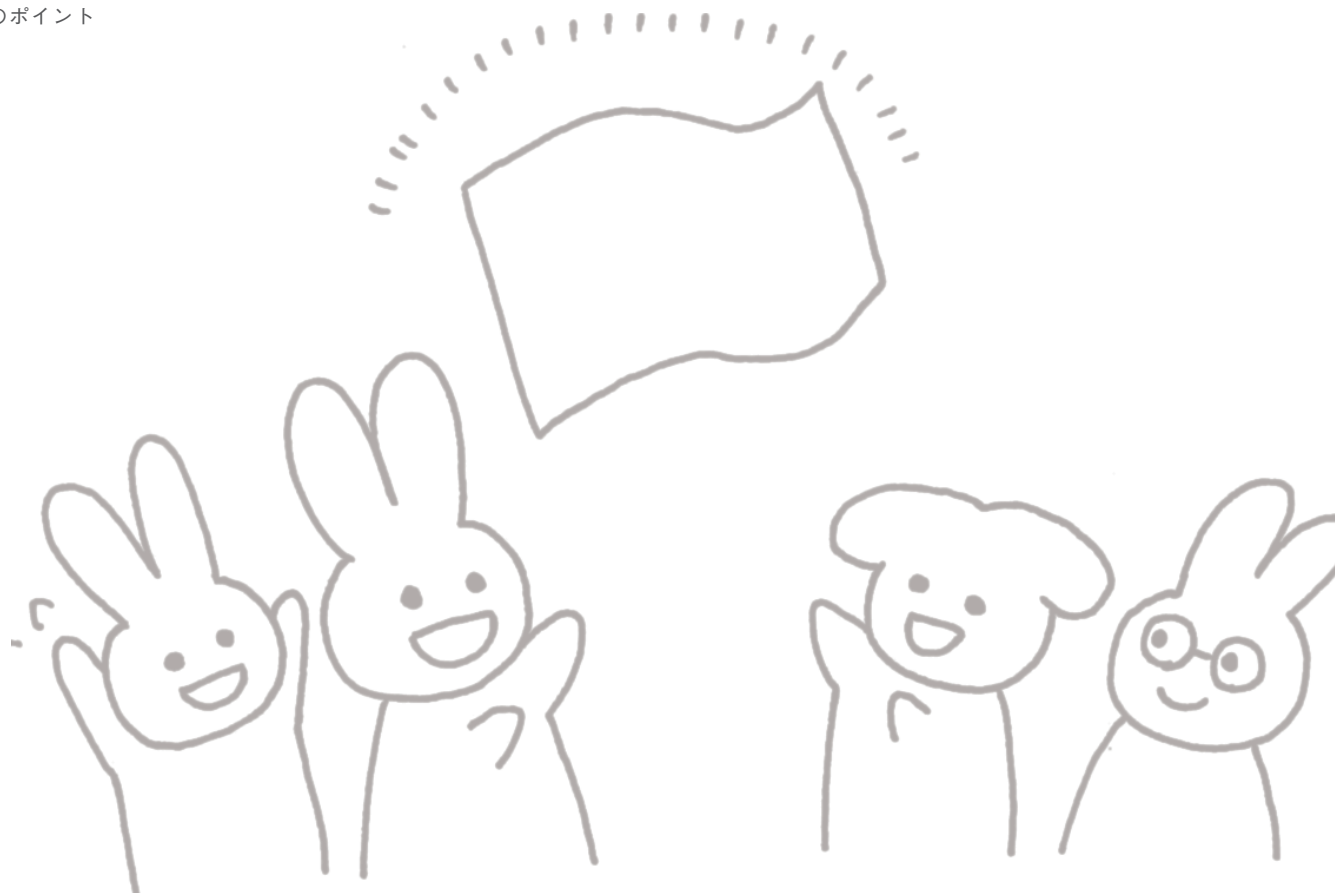
活動の準備が整ったら、いよいよ企画スタートです！→

「結の器」始動！

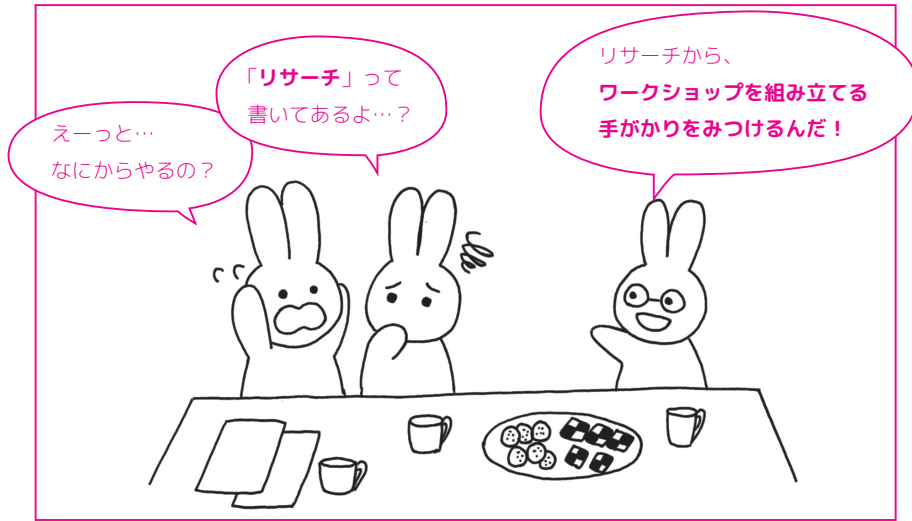
企画編

準備が整ったら、いよいよワークショップの企画です。「結の器」には、決まった形や制作方法はありません。対象となる人や地域、設定したテーマに応じて、最適な企画を考えていくことが大切です。

ここでは、結の器ワークショップを実現するために必要な4つのポイントをまとめました。企画に行き詰まったときや、ワークショップを評価するときも、この4つのポイントに立ち返ってみてください。



1 リサーチをする・テーマを決める



リサーチはきほんの「き」

対象となる人や地域に関するリサーチを行い、結果をWSの内容やテーマの決定、やきものかたちに活かしましょう。直接お話を伺うことで、何気ない会話から思わぬヒントが得られるかもしれません。個人に対してインタビューをするときは、リサーチシートを作ると便利です。項目ごとに質問し、メモをすることで整理ができ、事前に決めた知りたいことを忘れずに質問することができます。リサーチから、参加者のニーズや以前に行ったWSの課題を見つけて、それに応じて今回のWSのテーマや改良点を決めていきましょう。(リサーチシートに関する詳細は p26 へ)

Point!

- ・事前にリサーチする内容を全員で確認し、共通の認識を持つ
- ・インタビューではなるべく相手の話を遮らず、聴くことに重きを置く
- ・リサーチした内容を整理しWSに生かすための取捨選択をする

リサーチを活かして

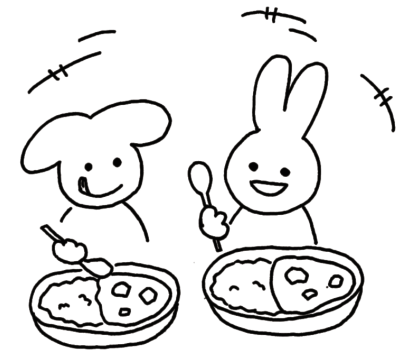
模様を活かす

対象の地域は桜の並木道があるらしい！
→器に桜の模様をつけて、器を使うたびに桜を思い出してもらおう！



かたちを活かす

参加者の方々は月に一度の食事会でカレーを食べるらしい！
→カレーを盛り付けることができるような大きめの器を作れるといいかな？

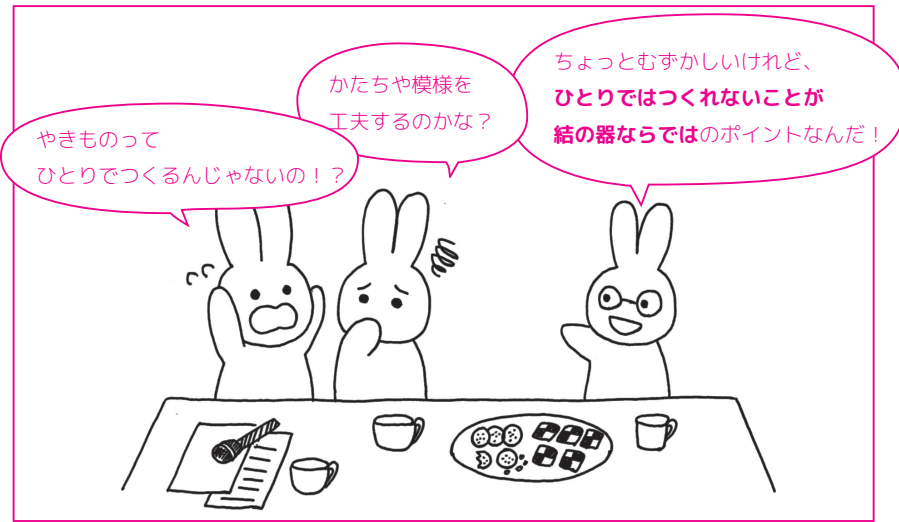


つくりかたを活かす

初対面の人と二人で器をつくるのは、疲れると言う意見があったな…
→二人だけではなく、もっと大人数で器を作れないかな？



2 ひとりではつukれない器



見て、使って、たのしい器

結の器は複数の人が関わりながらつくる器です。WSで制作する器には、参加者同士のつながりが目に見える形で残るような工夫をしましょう。見るたびに、つくったときのことを思い出したり、人々が集うきっかけとなる器を目指します。何度も使いたい器になるよう、リサーチを踏まえてつくり方や工夫する事項を考えていきましょう。

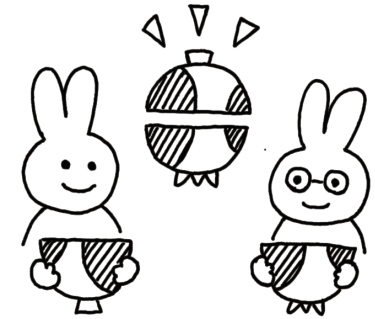
Point!

- ・リサーチを念頭に置き、参加者の求める器をイメージする
- ・イメージを基に実現できるしくみを考える
- ・作陶の様々な技法を活用することでつながりの跡が残るヒントになる

たとえばこんな器

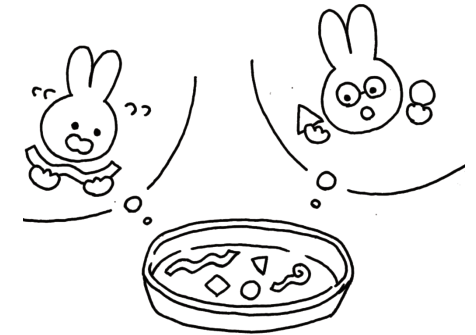
「組みのかたち」

ペアやグループでかたちを合わせてつくった器は、見るたびに一緒につくった相手のことを思い出せそう。具体的には型自体をペアでつくったり、グループで同じかたちの器をつくり、全員の器が揃うと一つのかたちができる、などもあるね。



「みんなでパーツ交換」

グループ内でつくったパーツを交換して、そのパーツで器に模様をつければ、自分だけではつukれない素敵な作品に仕上がそうだね。

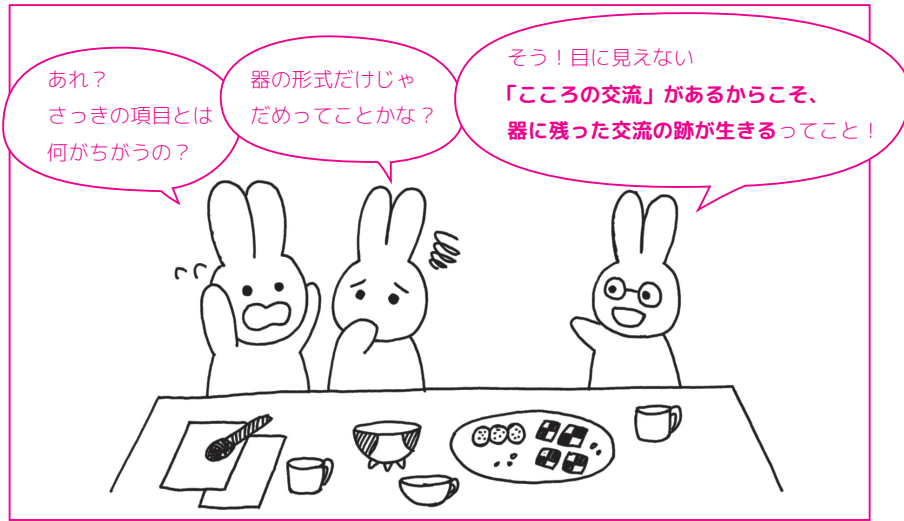


「場をつなぐ器」

はなれた場所を器でつなぐような試みを考えてみよう。たとえば、ある場所で作った型を別の場所でも使えば、別々のWSに参加した人同士もつながることができるね。



3 制作でコミュニケーションを図る



「こころの交流」を考える

器の形式だけでなく、制作工程における交流=コミュニケーションも重要です。制作における物理的・身体的触れ合いは、必ずしも精神的なコミュニケーションに直結しているとは限りません。どんな工程が効果的か、実際に複数人でデモンストレーションしてみると考えやすいでしょう。その際、スタッフ役と参加者役に分かれて、スタッフの声かけによる雰囲気づくりにも注意して取り組んでみましょう。

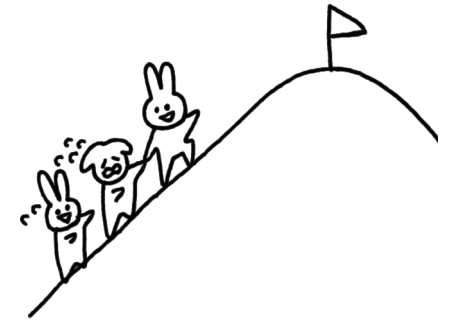
Point!

- ・ 複数人で様々な状況を予想しながらデモンストレーションしてみる
- ・ 過去のWSの様子もヒントにする

コミュニケーションのヒント

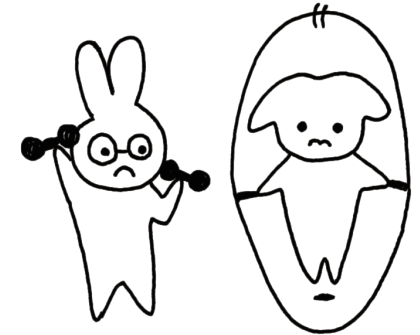
あえて難しい工程を

難しい工程をみんなで共有することで、思わぬ協力や助け合いが生まれ、達成感も共有することができるかも！？



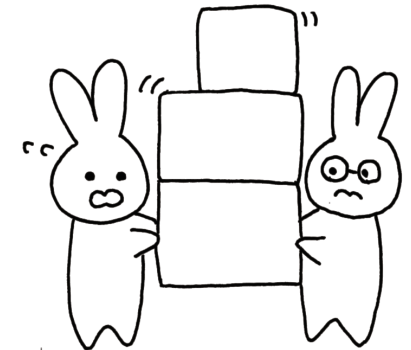
身体を動かそう

身体的に大きく動く作業を取り入れることで、会場全体の一体感が生まれて、参加しているという意識が強まりそう。

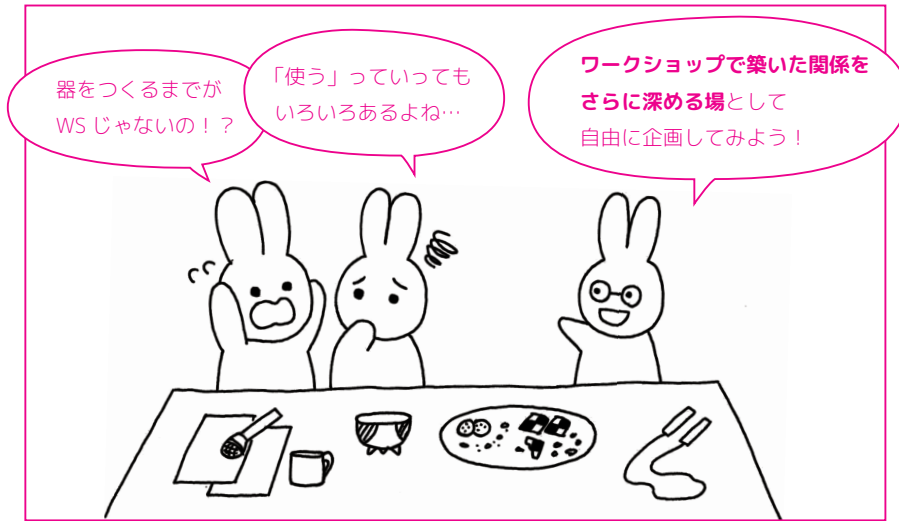


共同作業してみよう

作業を分担し、個人でなくグループで動くことで会話しやすい環境になるね。自分の役割を任されると、一生懸命参加できそうだ！



4 器を使う



器を使うまでがワークショップです

制作の過程で参加者全員が関わりを持つのは限界があります。そこで考えたいのが、「制作後」の企画です。

WS でつくった器を実際に使う機会を設けることで、さらに交流を広げることができます。工夫次第では、WS 参加者以外へのつながりを作ることができるかもしれません。”つくる”という過程だけではできない楽しさを感じてもらうことを意識して計画してみましょう。

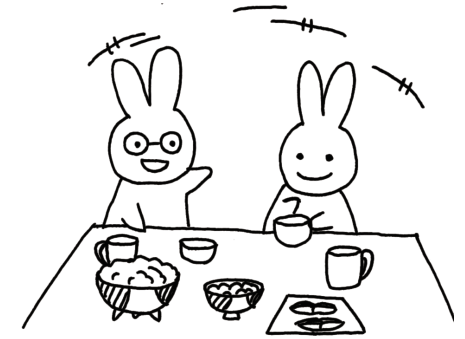
Point!

- ・器を使うことも WS の内容の一つとする
- ・制作のときと同様、リラックスして参加できる楽しい企画を目指す

つくったあとに、出来ること

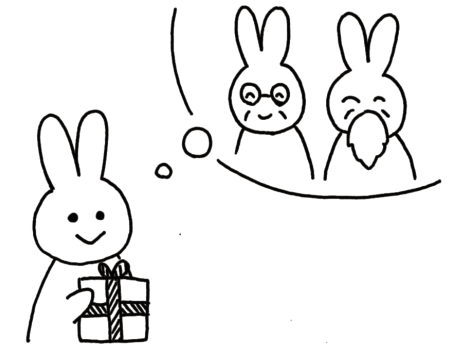
器で食事会をする

できた器に料理を盛って、みんなで食べよう。ごはんがあると会話がはずみ、笑顔になれる。一緒に調理するのも楽しいね。みんなで持ち寄ればレシピトークでも盛り上がるよ。



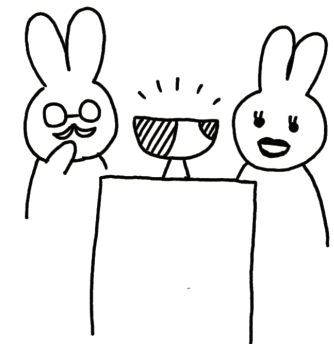
器を贈る

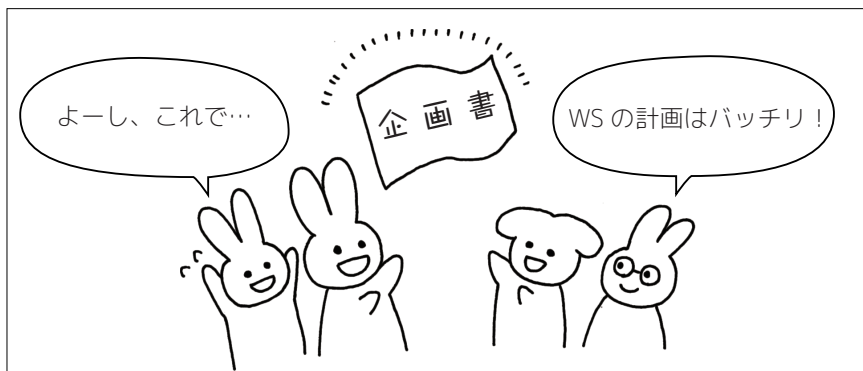
できたものを誰かに贈ろう。遠く離れた人ともつながれるかな？贈る人への気持ちも加わって、つくる手にますます力が入りそう。



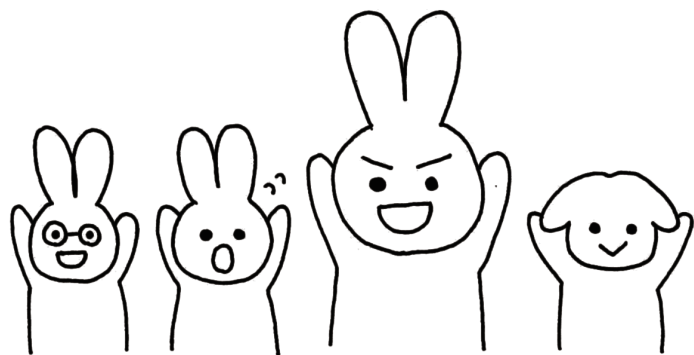
展覧会をする

みんなで作品を鑑賞し合うと沢山の発見があるね。工夫したところから、その人らしさを感じられるかも。様々な人に興味を持ってもらうチャンスにもなりそう。





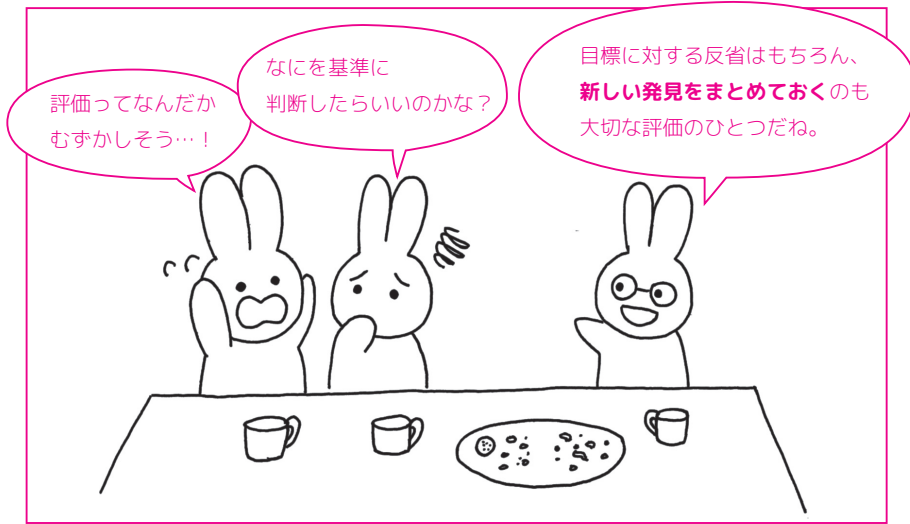
あとは、**実践あるのみだー!**



WSの計画はしっかり立てておくことと安心です。また、実際に器をつくりながら、練習しておくことも大切でしょう。練習から新たな課題や問題点を発見して改善していくことが、WSをより良いものへと進歩させてくれます。その際、作陶経験のない人にも協力してもらおうと、問題点がみえてきやすいのでおすすめです。



番外編 評価も忘れずに



評価は「まとめ」であり、「助走」である！

WSが終わったら評価をしましょう。

計画のときに考えたことはうまく実現できたか、ねらった通りの効果は得られたかななどを振り返ってみましょう。その際、これまでに見てきたWSの4つのポイントに注意しながらまとめていくと効果的です。スタッフ、参加者、そして第三者それぞれの立場の意見を聞きながらきちんと評価をすることで、次回からのWSをより良いものへするためのヒントが得られることでしょう。

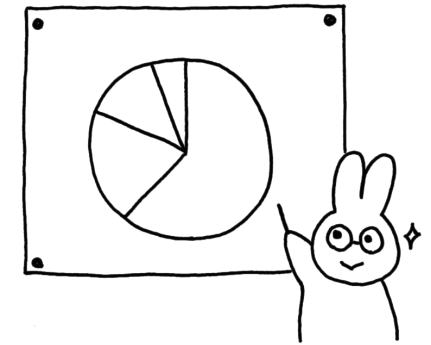
Point!

- ・ WS前に評価方法についても決めておき、準備・告知しておく
- ・ 評価を通してWSを振り返り、分析する
- ・ 得られた評価は第三者にもわかるカタチで残しておく

どのように評価できるか

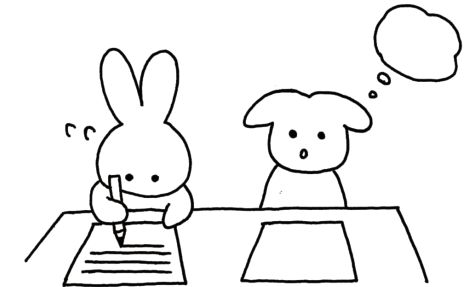
アンケート

参加者の人たちにアンケートをとろう。5段階評価や自由記述など、回答しやすい形式を取り入れて、事前に準備しておこうね。



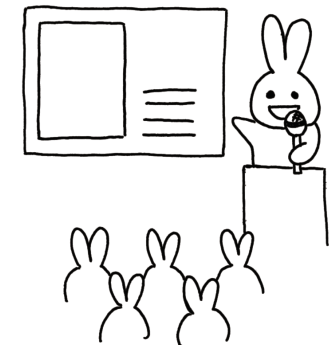
スタッフのレポート

スタッフの感想もとても大切。参加者の人の様子やWSの準備など、次のWSに生かすことのできる生の意見が盛り沢山だね。



発表する

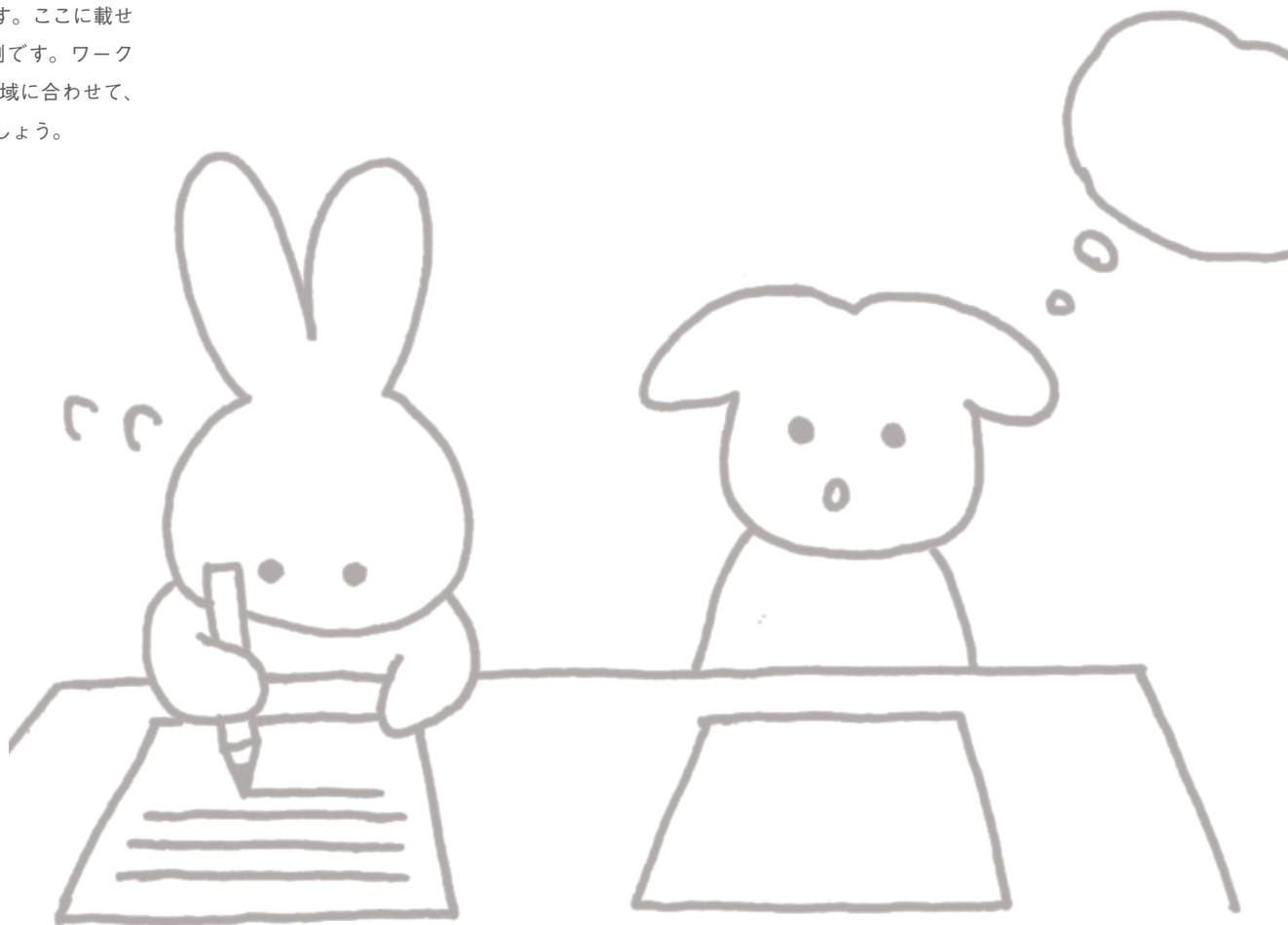
発表会や報告書を通して、第三者に評価してもらうことでWSの客観的価値や意見に触れることができるよ。



もっと知りたい！

ヒント編

「リサーチって具体的にはどんなふうにしたらいいの?」「宣伝しないとけないけど、何から手をつけていいかわからない!」「アンケートはどんな形式にするべき?」
そんな疑問にこたえて、ここからは、ちょっぴり実践的な内容を紹介します。ここに載せたのは、あくまでも一つの例です。ワークショップの対象となる人や地域に合わせて、適切な方法を模索していきましょう。



インタビューのきほん

より良いWSをつくるために、リサーチ時に人々のリアルな声を聴くことはとても大切です。インタビューは、その基本です。緊張するかもしれませんが、ぜひチャレンジしてみましょう。きちんとした下準備が、より充実したインタビューにつながります。

リサーチシートをつくる

インタビューをする際には、リサーチシートをつくりましょう。フォーマットをつくることで、あとで見やすく、まとめやすくなります。質問内容が統一されると、問題点や課題が見えてきやすくなりますよ。右ページのサンプルを参考にしてみてください。

●現状把握

まず、対象の人や地域のニーズを知るための質問を考えましょう。具体的には、「地域行事」や「住民の暮らしぶり」といったコミュニティに関する項目や、「WSでやりたいこと」といった企画内容に関する項目をたてると良いでしょう。

●課題調査

既にWSを行ったことがある場合や、類似するWSの前例がある場合は、それらに対する感想や意見を収集しましょう。得られた意見から問題点を見つけ出し、改善方法を探っていきます。

ヒアリングは「会話」

直接お話を聴くことで、WSに参加する方々と単なる“参加者”を一歩超えて“人”として接することになります。インタビューは緊張するものですが、それは相手もおなじ。できるだけリラックスして取り組みたいですね。会話を通して心から打ち解けることで何気ない気持ちや、隠れたニーズに触れることができるかもしれません。

●フォーマットにこだわりすぎない！

リサーチシートはあくまでも記録用です。実際のインタビューでは、質問の項目名や順序にとらわれず、臨機応変な対応を心掛けましょう。自然な会話の流れが、話しやすい環境をつくってくれます。

●相手の言葉を大切に

相手の発言に耳をかたむけ、言葉を遮らないようにすることも大切。ふとした会話のなかに、思いがけない発見をすることもあります。リサーチシートと共に、ボイスレコーダーなどで記録をとっておくと安心です。

リサーチシートのサンプル

* 結プロジェクト リサーチシート *

・日時	月 日() : ~ :
・場所	
・リサーチ者	
基本情報	
・氏名	
・以前住んでいたところ	
・結プロジェクト参加年	
WS（ワークショップ）について	
・WSでやりたいこと（形式、模様、形など）	
・WSを行う時期	
・WSを知りやすい広告方法（広告設置場所・方法など）	
・WSを学外で行える場所	
・WSの準備段階への参加意欲	
現在について	
・他のイベントへの参加	
・交流の状況	
・最近楽しかったこと	

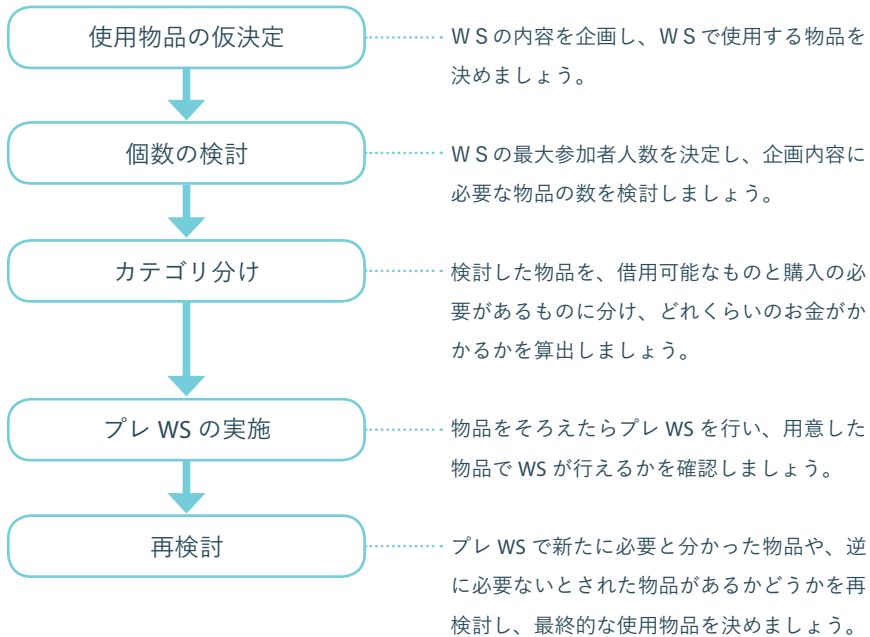
準備物と備品の管理

WSを行うときには様々な道具が必要になります。

WSの内容が決定したら、どんな道具がいくつ必要なのかを検討しましょう。

検討した後は、実際にプレWSを行い再検討をしたのちに、最終的な使用物品を決定しましょう。

準備物決定までの流れ



物品表をつくる

使用物品が決定したら、確認と管理のために物品表を作りましょう。特に、何回かに分けてWSを行う場合、どの回でどの道具を使うのかを明記しておく準備が楽になるでしょう。必要に応じて、借用物や購入品のリストも別途作成しておきましょう。

物品表のサンプル * 参加者 30 名の場合

結の器ワークショップ 物品表

		物品名	個数	備考	
材料	粘土	特上信楽白土			
		赤土			
		黒御影土			
		ビニール袋(保存用)			
	釉薬				
	石膏	石膏			
道具	成型	竹べら			
		竹串			
		輪がんな		〇〇より借用	
		剣先			
		タタラ板		7ミリ× 3ミリ×	
		切り糸			
		ウエス			
	石膏型づくり	ボウル			
		はけ			
		石膏用ボウル			〇〇より借用
		塩ビ			
		スプーン			
		ガムテープ			
		ハサミ			2人につき1つ
その他	掲示物	模造紙			
	受付	名札			
		バンダー ボールペン等			

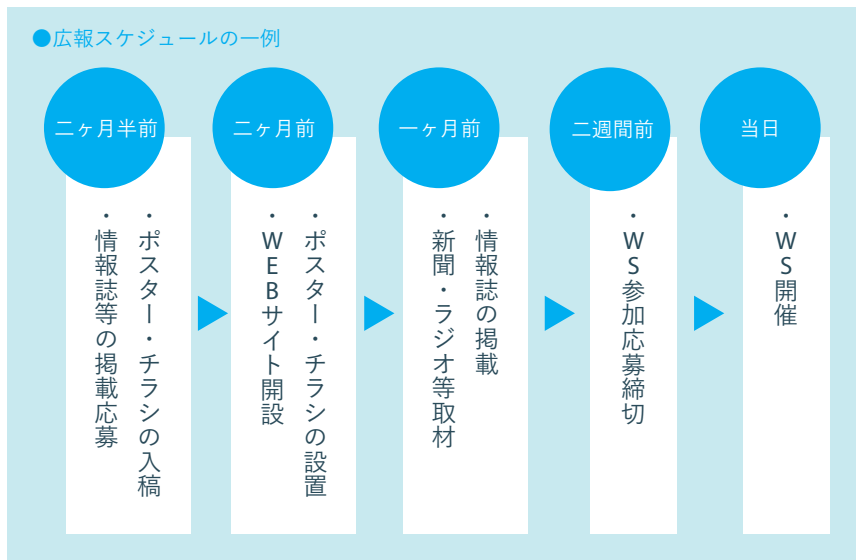


広報活動について

せっかくワークショップを企画しても、参加者が集まらなければ開催することができません。対象にあわせて適切な広報を行いましょう。様々な媒体を組み合わせていくことで、より大きな効果が期待できます。

広報スケジュールをたてる

広報活動には、多くの時間的制約があります。だから、スケジューリングがとても大切です。広報のスケジュールを立てる際に基準となるのは、「WSの開催日」と「参加申込の締め切り日」です。各種広報物は、ここから逆算して準備していくことになります。



伝えたいこと・知りたいこと

広報では、ワークショップの日時や場所といった必要最低限の情報に加えて、どんな主旨のワークショップなのか、どんな団体(個人)が主催しているのかといった情報も盛り込めると良いでしょう。また、交通機関の案内や、問い合わせ先なども見落としがちな項目です。広報を目にする人の気持ちになって、情報を選択していきましょう。

「誰に」「どこで」「どのように」

「誰にワークショップのことを知ってもらいたいのか」を考えることは、広報活動を行う上で最も大切なことです。対象者が変われば、広報の媒体や方法も変わってきます。ポスターやチラシをどこに設置するか、自分の口から直接宣伝できるとしたら、どんな場面が考えられるか……他の似たようなイベントがどのように広報されているのか調べてみるのも参考になるでしょう。

● 広報媒体の例

チラシ・ポスター	いちばん分かりやすい広報形式ですが、時間やコストがかかる媒体でもあります。どこに設置してもらうのか、誰が見るのかを考えた上でデザインし、必要枚数を留意しましょう。業者に印刷を発注する場合は、入稿時期を計算してから作業をはじめましょう。
WEB	Facebookやtwitter、施設・自治体のHPなど、WEB上には広報のチャンスがたくさんあります。既存のWEBサービスを利用すれば、コストもほとんどかかりませんが、情報が埋もれやすいのも事実です。WEBは他の媒体と組み合わせると効果的でしょう。
広報誌・情報誌	地域住民の参加者を募る場合、自治体の広報誌や情報誌を活用するのは非常に有効です。これらに掲載してもらう場合、あらかじめ応募締切を確認しておきましょう。また、ワークショップの参加費の有無が掲載条件に関わることもあるので注意しましょう。
DM、他のイベントでの告知	対象者の連絡先が分かっている場合は、手紙やメールで告知することも可能です。「ある地域の全世帯にチラシを配布したい」といった場合は、市役所などに問い合わせるのも有効です。また、イベント等に参加し、対象者に直接告知することができれば、相手の反応に応じてしっかりと広報することができます。

アンケートのつくりかた

WSに参加してくださった人にアンケートをとりましょう。
アンケートによって、参加者のWSに対する評価を客観的に確認することができます。
アンケートを作るときは、知りたいことを明確にしてから設問文を決めていくことが大切です。

「定量化」と「定性化」を上手につかう

アンケートは、参加者の評価を知るだけでなく、成果報告や引き継ぎのための大切な資料になります。設問は、数値的なデータにまとめられるものと、具体的で詳細な意見を問うものを組み合わせておくと、あとでより客観的な分析が可能になります。知りたいことに合わせて、項目ごとに質問形式を選択していきましょう。

定量化	定性化
<p>五段階評価や、項目選択式の設問を作りましょう。結果を数値化したデータに起こすことができるので、図やグラフにまとめやすくなります。説得力があり、客観的なデータになるので、第三者への提示や報告書類の制作に非常に役立ちます。</p> <p>●設問例 問：WSの説明は分かりやすかったですか。 とても満足 / 満足 / ふつう / やや不満 / 不満</p> <p>問：このWSをどちらでお知りになりましたか。 はがき / ポスター / WEB / 広報誌 / その他</p>	<p>自由記述欄などをつくって具体的な感想を聞く設問を作りましょう。参加者がWSに参加して実際に感じたことを参加者自身の言葉で聞くことができます。また、選択式の設問と組み合わせると、その回答にいたった理由を聞くこともできます。</p> <p>●設問例 問：今後もWSに参加するとしたら、以下のうち、ご都合の良い開催時期はありますか。よろしければ理由もお聞かせ下さい。</p> <p>7-8月 / 9-10月 / 11-12月 / その他の時期 (理由：)</p>

設問の例

- WS全体の満足度について
- 開催時期、WSの回数について
- WSのお知らせ、DM郵送の時期について
- WSで特に楽しかった行程、その他意見、感想（自由記述）
- 今後もWSのお知らせを希望する場合の連絡先など



費用の準備 / 個人情報の管理

さいごに、WSの運営においてとても大切なお金と個人情報の管理についてです。どちらも、慎重な運用が要求されます。これらの取扱については、スタッフ全体で把握しておくようにしましょう。

運営費用の調達

WSの運営には資金が必要不可欠です。考えられる資金源は大きくわけて3つあります。

① WSの参加費でまかなう

これは、運営側が自由に設定できますが、WSの規模や参加人数によっては一人当たりの参加費が高額になってしまうこともあります。

② 一般企業・団体からの協賛金を募る

WSの主旨に賛同してもらうために、プレゼンテーションをしたり、プログラムに広告を掲載したりする必要があるでしょう。既にWSの実績がある場合は特に有効です。

③ 国や地方自治体・教育機関の助成金制度に応募する

最近では、災害復興や地域活性化に貢献する事業に対する助成金の制度が増えていますから、企画にあった条件で探してみるとよいでしょう。

個人情報の管理

参加者の方の個人情報はひとつの形式にまとめ、厳重に保管しましょう。むやみに記録媒体を増やしたり、共有したりすることは避けましょう。

参加者の方の写った写真を、企画の広報や報告書に使用する可能性もあります。その場合は、参加者に対して事前に説明を行い、了解を得るようにしましょう。また、使用する写真のなかに、参加者の名札がうつりこんでいることもあるので注意しましょう。

おわりに

このガイドブックで結の器ワークショップの目的や開催のためのヒントは伝わったでしょうか？

「結の器ワークショップ」の発端となったのは、2011年に発生した東日本大震災でした。当時、被災地からつくばに避難された方の中には、周囲との交流がなく、孤立している方もいらっしゃいました。その中で、つくば市民と避難された方との間に学生が入り、作陶を通じて、コミュニケーションの場をつくろうという試みが生まれたのです。

活動を継続するなかで、復興支援の問題に限らず、現代の様々な社会問題の原因のひとつとして「つながりの希薄化」があることに気がつきました。だからこそ、結の器ワークショップは「つながりの場」になるということをなによりも大切にしています。

このことを心に留めて、みなさまの企画運営に本ガイドブックを活用いただければ幸いです。

MEMO

結の器ワークショップ企画ガイドブック

編集 山ノ井梨紗子、吉田真梨、高野静香、原田薫、出口真帆、砂田夏海、
三宅映未、野口悠梨、小田島果咲、永野真未、小池美佳子
結の器プロジェクト

<https://www.facebook.com/yui.utsuwa>

E-mail yui.utsuwa@gmail.com

デザイン 山ノ井梨紗子

イラスト 出口真帆、砂田夏海

監修 齋藤敏寿、高崎葉子、阿部潤

発行 筑波大学芸術系齋藤敏寿研究室

〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL/FAX 029-853-2849

発行日 2016/03/25

Copyright© SAITOToshiju.Lab All Right Reservd.

